

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-121	高等学校	公民科	政治・経済	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	政経 701	政治・経済		

1. 編修の基本方針

民法上の成年年齢
の引き下げ

「学力の3要素」
の育成

大学入学共通テスト
の実施

「18歳成年時代」に必要な力を育む

新しい「政治・経済」教科書

(1) 思考・判断の基盤となる「確かな知識」を育みます

- ・ わかりやすい本文と豊富な注により、基礎・基本を確実に理解することができます。
- ・ 「レクチャー」のコーナーとデジタルコンテンツで、生徒のつまずきを解消します。
- ・ 各章の冒頭で「公共」の学習内容との関連を示し、「公共」を踏まえた学習ができます。
- ・ 過去のセンター試験／共通テストなどを参考に、重要な知識を確実にカバーしています。

(2) 多種多様な資料をもとに「思考・判断・表現する力」を育てます

- ・ グラフなどの資料を約640点掲載し、本文と資料を関連づけた学習が可能です。
- ・ ②マークの問いで資料活用を促し、資料読解の技能や考察力を伸ばすことができます。
- ・ 「トピック」のコーナーと①マークの問いで、思考・判断・表現する力を深めます。
- ・ 「諸課題の探究」（各編3章）では「視点」を明示し、より深い考察を促します。

(3) 自律した学習に必要な「自ら課題を立て探究する力」を育てます

- ・ 「節の問い」と「項の問い」で学習の見通しを立て、「節のまとめ」で振り返るという、「問いを軸にした単元構成」で、課題追究的な学習ができます。
- ・ 「諸課題の探究」（各編3章）では探究学習の流れを「探究課題の設定→つかむ→考える→まとめる・参加する」の4段階で示し、探究の流れをより意識して学習できます。

(4) 「よりよい社会の形成に参加する態度」を育てます

- ・ 「18歳からの社会参加」のページでは成年年齢や選挙、金融、消費者、労働に関する内容を実生活に則した視点から扱い、主権者教育や18歳成年を踏まえた指導に活用できます。
- ・ SDGsについて多面的に取り上げ、持続可能な社会の形成に主体的に参加する態度を育てます。
- ・ 最新の社会情勢を反映し、現代の社会に対する理解や考察を深めることができます。

2. 対照表

■教科書全体に共通する要素

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	・ 現代的な諸課題を論題形式で取り上げて考察のポイントをわかりやすく解説し、関連する資料と、対話的な活動を含む①の問いをあわせて提示することで、思考・判断・表現する力を総合的に育てることができるようにした。(第1, 2号)	20, 41, 51, 77, 83 ページなど、全体で14箇所
	・ 需要と供給、物価変動の影響、金利変化の影響、国際収支表など、生徒がつまづきやすいポイントについて、リンク先の「Dマークコンテンツ」も含めてわかりやすく解説することで、無理なく確実に理解できるようにした。(第1号)	61, 71, 97, 98, 103 ページなど、全体で19箇所
	・ 本文と関連する話題や、本文を深める内容などを取り上げることで、興味・関心をもちながら学習に取り組むことができるようにした。(第1号)	7, 19, 32, 39, 41 ページなど、全体で21箇所
	・ 本文の内容に関連する判例を取り上げ、わかりやすく解説することで、判例に親しむとともに、本文の内容に対する理解を深めることができるようにした。(第1号)	31, 32, 33, 35, 36 ページなど、全体で14箇所
②マーク	・ グラフや地図、表、写真などの資料に付記し、それらの読み取りや分析のポイントを示したり、複数の資料を関連づけた読み取りを促したりして、資料読解の技能を確実に育てることができるようにした。(第1, 2号)	6, 8, 9, 10, 11 ページなど、全体で164箇所
①マーク	・ すべての「トピック」および一部の「コラム」「判例」や資料などに付記し、それらをもとに考察したり、話し合ったりする活動を紹介することで、思考・判断・表現する力を育てることができるようにした。(第1, 2号)	20, 32, 34, 36, 38 ページなど、全体で34箇所
④マーク	・ 学習上のポイントに付記し、二次元コードや URL を通じてインターネット上のデジタルコンテンツ(Dマークコンテンツ)にアクセスできるようにすることで、生徒が自学自習しやすいように配慮した。特に「レクチャー」のコーナーにはよりわかりやすく解説するスライドやクイズを、「18歳からの社会参加」には興味・関心を高める映像を用意した。(第1, 2, 3号)	26, 34, 48, 61, 71 ページなど32箇所
	・ 成年になり選挙権を得る年齢である「18歳」にスポットライトをあて、「18歳」になったら気をつけるべき点をわかりやすく解説することで、「政治・経済」の学習を実生活へとつなげることができるようにした。また、この特設ページのうち4箇所については、興味・関心を高める映像を「Dマークコンテンツ」として用意した。(第2, 3号)	14, 78~79, 112~113, 140~141, 148~149 ページ
章の導入	・ 各章に、導入のページを見開き2ページずつ設け、学習に関連する写真を大きく掲載し、興味・関心を高めることができるようにした。また、各編1, 2章の導入のページでは「公共」の学習内容との関連を模式図で示し、「公共」を踏まえて学習できるようにした。(第1号)	4~5, 80~81, 156~157, 172~173, 204~205, 236~237 ページ
平易な文章	・ 政治・経済のしくみを確実に理解し、その課題について幅広い視野から考察できるように、文章を平易に記述した。(第1号)	全体
豊富な資料	・ グラフや地図、表、写真などの資料を約600点(従来の約1.7倍)に増やし、資料と本文を関連づけることで確実に理解できるようにした。(第1号)	全体

■ 単元ごとの内容

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所
前見返し、 後見返し	<ul style="list-style-type: none"> 前見返しには世界地図「世界の現状」を、後見返しには年表「日本の出来事、世界の出来事」を掲載し、地理的・歴史的な視点を踏まえて学習できるようにした。(第1号) 冒頭に「『公共』から『政治・経済』へ」を掲載し、「公共」の学習のポイントを示すことで、「公共」の学習内容の振り返りから無理なく「政治・経済」の学習へと導入できるようにした。(第1号) 	前見返し、 後見返し 前見返し～1ページ
第1編1章 現代日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 「社会契約説の比較」の表を掲載し、ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説の違いをとらえやすくした。また、原典資料として『法の精神』『マグナ・カルタ』『権利章典』『アメリカ独立宣言』を新たに掲載し、「法の支配」や基本的人権についての理解を深めることができるようにした。(第1号) 「法と民主政治」の項を設け、社会生活と法との関わりについて私法を中心にわかりやすく記述することで、法的な見方・考え方を身につけることができるようにした。(第1号) 特設ページ「18歳になるとできること」を設け、成年年齢の引き下げについて取り上げることで、成年を迎えるにあたって必要とされることに気づくことができるようにした。(第3号) コラム「古代ギリシャの民主政治」や「ファシズムと全体主義」、トピック「これからの民主主義はどうあるべきか」を掲載し、民主主義のあり方について考察を深めることができるようにした。(第2号) コラム「ヘイトスピーチの規制」や「性の多様性の尊重」、「感染症対策と人権」を掲載し、現在の日本が抱える人権に関する課題について理解を深めることができるようにした。(第2号) トピック「ネット社会で自由をどう守るか」やコラム「インターネットと政治」を取り上げ、インターネットが人権保障や政治に与える影響について多面的・多角的に考察できるようにした。(第2号) トピック「議会における男女平等をどう実現するか」を設け、日本の政治における男女平等のあり方について考察を深めることができるようにした。(第3号) 三権分立や裁判員制度、国政選挙のしくみなど学習のポイントとなる箇所に「Dマークコンテンツ」(デジタルコンテンツ)を用意し、理解しやすくした。 レクチャー「日本の国政選挙のしくみ」やトピック「日本の『政治の座標軸』はどうなっているか」を掲載し、日本の政治や選挙についての理解を深めることができるようにした。さらに、特設ページ「選挙権の行使に向けて」を設け、投票のしかたや選挙運動の注意点などについて「Dマークコンテンツ」(デジタルコンテンツ)も用いてわかりやすく解説し、主権者教育に活用できるようにした。(第3号) 	8, 9, 11, 15 ページ 10～13 ページ 14 ページ 7, 19, 20 ページ 32, 39, 41 ページ 41, 76 ページ 51 ページ 26, 34, 48, 61, 71 ページ 71, 77, 78～79 ページ
第1編2章 現代日本の経済	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的な経済思想について、模式図「資本主義と社会主義の歩み」と表「経済思想の歩み」を掲載し、時系列の変化と各思想の比較を通じて理解できるようにした。(第1号) コラム「政策と合理的意思決定」を設けて行動経済学を取り上げ、経済的な見方・考え方を身近な生活に活用することの意義に気づくことができるようにした。(第1号) トピック「『資本』とは何か」や「これからの企業はどうあるべきか」、「格差を解消するにはどうすればよいか」を設け、現在の日本経済の課題について考察を深めることができるようにした。(第1号) 需要と供給、景気変動、物価変動の影響、金利変化の影響、信用創造、少子高齢化と人口減少といった、生徒が苦手としがちな内 	86, 87 ページ 89 ページ 83, 95, 127 ページ 97, 98, 103, 104, 107, 108, 126 ページ

	<p>容について、「レクチャー」を設け、「D マークコンテンツ」（デジタルコンテンツ）も活用しながら確実に理解できるようにした。（第1号）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非伝統的金融政策に関する記述や資料を充実させ、近年の日本の金融政策について理解しやすくした。また、特設ページ「ライフプランと金融」を設け、自立した経済生活を営んでいくために必要な金融リテラシーを身につけることができるように工夫した。（第2号） ・「情報化の進展と社会の変化」の項を設け、急速に進む情報化・デジタル化および「第四次産業革命」の概要を理解し、その課題について考察できるようにした。キャッシュレス化についてはコラム「キャッシュレス社会の進展」を設け、その特徴や課題をとらえられるようにした。（第1号） ・「農業・食料問題」と関連して「日本の林業・水産業の課題」を新たに引き上げ、持続可能な林業・水産業のあり方について考えることができるようにした。（第4号） ・特設ページ「消費者市民社会の実現に向けて」を設け、自立した消費者として必要な知識や考え方を身につけることができるようにした。（第3号） ・トピック「これからの日本の雇用はどうあるべきか」や特設ページ「働き方について考える」を設け、将来の日本の雇用のあり方について考察したり、ワークルールについての基礎的な知識を身につけたりすることができるようにした。（第2号） 	<p>ジ</p> <p>110～111, 112～113 ページ</p> <p>136～137, 105 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>140～141 ページ</p> <p>147, 148～149 ページ</p>
第1編3章 現代日本の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「少子高齢社会における社会保障」のテーマでは子育て支援の例を取り上げ、日本の社会保障のあり方について自分事として考えることができるようにした。（第3号） ・「多様な働き方・生き方の実現」のテーマでは労働におけるジェンダー平等の例を取り上げ、男女平等を志向する態度を身につけることができるようにした。（第3号） ・「日本の財政の健全化」のテーマを設け、日本の福祉国家としてのあり方について主権者、納税者の立場から考察できるようにした。（第3号） ・「防災と安全・安心な社会の実現」のテーマを設け、身近な地域における防災・減災のあり方について、地域社会の一員として主体的に考察できるようにした。（第3号） 	<p>158～159 ページ</p> <p>162～163 ページ</p> <p>166～167 ページ</p> <p>170～171 ページ</p>
第2編1章 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦期の分断国家や、冷戦後の旧ソ連・欧米の状況、「アラブの春」の広がりなどを示す多彩な地図を豊富に掲載し、地理的な位置や分布を踏まえて学習できるようにした。（第1号） ・「冷戦後の国際関係と日本」の項を設け、最新の国際社会の動向をわかりやすく解説した。特に中国についてはコラム「中国の台頭」を設け、中国台頭後の国際関係のあり方について考察できるようにした。（第1号） ・「地域主義の動き」の項を設け、EUをはじめとする地域主義の動きを国際政治の側面からも理解できるようにした。（第1号） ・章全体を通じて、国際社会と日本との関わりについてたびたび言及することで、国際的な視点から日本のあり方をとらえることができるように工夫した。特に「国際社会における日本の役割」の項では、トピック「日本のODAはどうあるべきか」を設け、国際社会における日本の役割について考察を深めることができるようにした。（第5号） 	<p>182, 183, 186, 188, 189 ページなど</p> <p>186～189 ページ</p> <p>190～193 ページ</p> <p>200～203 ページ</p>
第2編2章 現代の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・比較生産費説、外国為替、円高と円安、国際収支表といった、生徒が苦手としがちな内容について、「レクチャー」を設け、「D マークコンテンツ」（デジタルコンテンツ）も活用しながら確実に理解できるようにした。また、為替レートの変動要因についてもデジタルコンテンツを用意した。（第1号） ・「地球環境問題」と「資源・エネルギー問題」の項を分けて内容を充実させるとともに、トピック「日本のエネルギー供給はどう 	<p>206, 207, 208, 210 ページ</p> <p>223～225, 226～229 ページ</p>

	<p>あるべきか」を設けて、環境保護に向けた国際協力や日本のエネルギーのあり方について考察を深めることができるようにした。(第4号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人口・貧困・感染症」の項を設け、人口問題や貧困問題、移民問題、感染症問題などについて、相互に関連づけながら考察できるようにした。特に新型コロナウイルス感染症の世界的大流行についてはコラムを設けて詳しく扱った。(第1号) ・持続可能な社会の形成について、フェアトレード、マイクロファイナンス、BOP ビジネスなどのさまざまな取り組みを紹介するとともに、持続可能な開発目標 (SDGs) についての「レクチャー」を設けることで、持続可能な社会の形成に主体的に参加する態度を養うことができるようにした。(第3, 4号) 	<p>230～235 ページ</p> <p>234～235 ページ</p>
第2編3章 国際社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル化にともなう社会変容」のテーマを設け、日本における在留外国人の増加と多文化共生の例を取り上げることで、異なる文化を受け容れ「他者」と共生していこうとする態度を養うことができるようにした。(第2号) ・「イノベーションの促進と成長市場」のテーマを設け、医療のイノベーションの例を通じて、情報化・デジタル化が経済や社会に及ぼす影響について多面的・多角的に考察できるようにした。(第1号) ・「民族問題と紛争の解決」のテーマでは、パレスチナ問題を例にあげ、異なる宗教・民族の共生について考察できるようにした。(第2号) ・「持続可能な社会の実現」のテーマを設け、持続可能な社会の形成に向けて自らにできることを考えることを通じて、よりよい社会の形成に参加する態度を養うことができるようにした。(第3, 4号) 	<p>238～239 ページ</p> <p>244～245 ページ</p> <p>246～247 ページ</p> <p>248～249 ページ</p>
探究のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・各編3章などでの探究学習に必要な技能について丁寧に説明し、探究学習を円滑に展開できるようにした。(第1号) 	<p>250～254 ページ</p>
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「政治・経済」の学習に重要な18の法令を取り上げ、法令の文言を参照しながら学習できるようにした。(第1号) 	<p>255～267 ページ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 使いやすい判型と紙面構成

- ・ A5判とB5判の中間にあたる特殊な判型 (B5変型判) を採用することで、コンパクトかつ充実した紙面を実現した。本文ページには側注欄を設け、資料やコラム類の掲載点数を増やすとともに、学習を助ける多様な「問い」の掲載を実現した。

(2) 特別支援教育や環境への配慮

- ・ 教科書全体を通してユニバーサルデザインフォント (UDフォント) を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすさを向上させた。
- ・ 色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフなどでは、凡例をできるだけ使用せずに図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を極力減らしたりした。
- ・ 環境に配慮して、再生紙と植物油インキを使用するとともに、印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング認定工場」で印刷した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

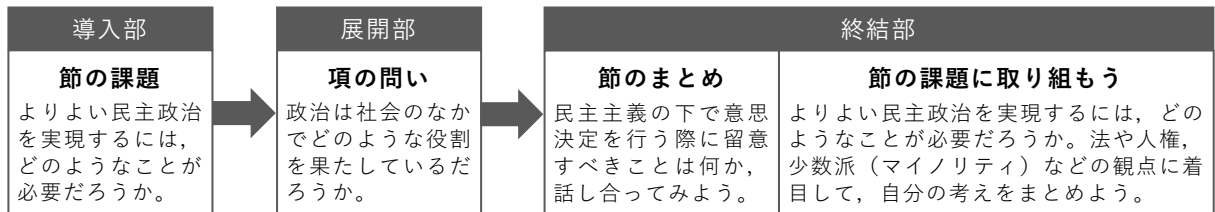
※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-121	高等学校	公民科	政治・経済	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	政経 701	政治・経済		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

※以下のページ数は、教科書内でのページ数を示す。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「問い」の充実

- ①〔「問い」を軸にした学習の構造化〕各節の導入部に問いを提示して学習の見通しをもたせるとともに、終結部の「節のまとめ」で複数の項の学習を束ねる問いを、「節の課題に取り組もう」に節の問いの振り返りを掲載することで、節単位で学習を構造化し、主体的な学びを促すようにした。さらに、各項（本文ページ）に、節の問いを具体化した三つの問いを掲載することで、問いを常に意識しながら各項の学習を進めることができるようにした。



▲節の学習の構造（第1編1章1節の例）

- ②〔思考・判断を促す問いの工夫〕節・項の問いには、主として知識・理解を問う「どのように」型の疑問に加え、思考・判断を促す「なぜ」型や、社会参加を促す「どうするか」型の疑問を適宜取り入れることで、思考・判断する力を高めることができるようにした。
- ③〔主体的・対話的な学びを促す「トピック」〕主体的・対話的な学びの場面として、現代的な諸課題を論題形式で取り上げる「トピック」を設け、考察や議論を促す①の問いを付記した。また、「トピック」以外にも①の問いを図版等に適宜付記し、学習を深めることができるようにした。

トピック これからの民主主義はどうあるべきか

民主主義では、人々が参加し、議論を深め、物事について決定するが、これらのうちのどの側面をとりわけ重視するかによって、あるべき民主主義についての見解が分かれる。

多くの人が参加することを何より重視するのが参加民主主義論である。参加民主主義の立場からすれば、代表としての政治家に重大な決定を任せることは民主主義の形骸化であり、決定のさまざまな局面で一般の人々が参加が必要である。

これに対して、さまざまな政治家の間での競争を経て、決定権をもつ代表を決めることを民主主義の主張とするのが、競争的民主主義論である。競争的民主主義の立場からすれば、選挙の結果が重要であり、人々の政治参加はさほど重視されない。選挙が終われば、次の選挙までは政治家たちの判断に任せるべきとされる。

さらに、近年、強く主張されている立場として、熟議民主主義論がある。これは、人々が考えを深め、議論を活発に行うことを何よりも重視するものである。こうした立場からすれば、人々が自然と参加しているのでは十分ではなく、議論の質を上げることが求められる。一方で、競争的民主主義と比べると、政治家間の競争は中心的な事柄ではない。むしろ一般の人々同士の議論が重視されるのである。

このように、民主主義をめぐるさまざまな立場があり、どの考え方が適切か、考えてみることに意義がある。

対論型世論調査による意見の変化(下)と、討論の様子(上、2012年) 討論型世論調査は、1回かぎりの世論調査(※p.74)だけでなく、情報提供と討論を経たうえで、再度世論調査を行って意見の変化をみる手法。

アンケート調査	32.6	16.8/10	23.9	11.7
小グループ討論 全体実施	41.1	18.2/13	13/13.7	
小グループ討論 全体実施	49.7	15.4/10	15.4/9	
アンケート調査	0	50	100%	

①参加民主主義論、競争的民主主義論、熟議民主主義論それぞれの特徴をまとめてみよう。
②それぞれの民主主義論の長所と短所を具体的に考え、今後私たちがとるべき立場について話し合ってみよう。

▲「トピック」の例 (p.20)

- ④〔掲載資料の増加と資料活用を促す②の問い〕B5変形判の判型を活かして、グラフや写真などの資料の掲載点数を約640点（従来の約1.8倍）に増やすとともに、本文に図番号を付すことで本文と資料を関連づけて学習できるようにした。さらに、資料には適宜、読み取りや分析を促す②の問いを付記し、読解のポイントを示したり、複数の資料を関連づけた読解・考察を促したりすることで、資料の効果的な活用を図ることができるようにした。

(2) 探究の流れと考察の視点がわかりやすい紙面構成

- ①〔探究の流れの明示〕各編3章の「諸課題の探究」では、探究の流れを「探究課題の設定→つかむ→考える→まとめる・参加する」の4段階で明示し、探究の流れを意識して学習を展開できるようにするとともに、社会参加への意欲を高めることができるようにした。さらに、探究学習で必要とされる技能等を巻末の「探究のスキル」(p.250~254)で詳しく解説することで、探究学習を円滑に展開できるように工夫した。
- ②〔「視点」の明示〕「諸課題の探究」では、「考える」の段階に四つの「視点」を明示することで、「見方・考え方」を意識した深い学びを実現できるようにした。また、上述の「節のまとめ」や❗❗の問いにおいても適宜、読解や考察の視点(観点)を明示した。



▲「諸課題の探究」の例 (p.158~159)

(3) 18歳選挙権や成年年齢引き下げへの対応

- ①〔「18歳からの社会参加」の新設〕18歳選挙権や成年年齢引き下げへの対応として特設ページ「18歳からの社会参加」を新設し、成年年齢 (p.14)、選挙 (p.78~79)、金融商品 (p.112~113)、消費者トラブル (p.140~141)、労働トラブル (p.148~149) について取り上げ、「政治・経済」の学習を実生活へと活かすことができるように工夫した。これらのページには親しみやすいイラストを配置するとともに、「Dマークコンテンツ」((6)③参照)として関連する内容の動画へとリンクさせることで、生徒が興味をもって学習に取り組むことができるようにした。

(4) 学びやすさに配慮した構成・配列

- ①〔「公共」からの接続〕教科書の冒頭に「『公共』から『政治・経済』へ」を掲載し、「公共」の学習の振り返りを通じて円滑に「政治・経済」の学習へと導入できるようにした。また、各編1, 2章の冒頭 (p.4など) に、「公共」と「政治・経済」の学習内容のつながりを示す模式図を掲載し、「公共」での学習を意識しながら学習を展開できるようにした。



▲「18歳からの社会参加」の例 (p.78~79)

- ② [全体の構成] 学習指導要領を踏まえた2編構成とし、第1編ではおもに国内の事象を、第2編ではおもに国際的な事象を取り上げた。また、2編とも、第1章では「政治」、第2章では「経済」、第3章では「諸課題の探究」を取り上げるという共通の章構成を採用し、第1、2章での学習を踏まえて第3章の「諸課題の探究」を展開できるようにした。なお、こうした編・章の構成が視覚的にわかりやすいよう、各編・章ごとに異なる色のツメ（インデックス）をページ下部に設け、検索しやすくした。
- ③ [法を扱う項の新設] 第1編1章に「法と民主政治」(p.10~13)を新設し、社会生活と法との関わりについて私法を中心に扱うことで、「公共」での学習内容を踏まえて、法についての理解を深めることができるようにした。
- ④ [地域主義の扱いの拡充] 第2編1章に「地域主義の動き」(p.190~192)を新設し、EUをはじめとする地域主義の動向について、国際経済だけでなく国際政治の文脈からもとらえることができるようにした。また、第2編1章全体を通じて、国際社会における日本のおかれた状況と役割について適宜言及することで、国際的な視点から日本のあり方について考察できるようにした。
- ⑤ [地球的課題を扱う節の新設] 第2編2章2節「世界経済の現状と課題」(p.220~235)を新設し、地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・飢餓・貧困問題、移民、感染症などの多様な地球的課題をまとめて配置することで、持続可能な社会の形成について「政治・経済」の学習を総合して考察し、第3章の「諸課題の探究」へとつなげることができるように工夫した。
- ⑥ [巻頭・巻末の充実] 前見返しには世界地図「世界の現状」を、後見返しには年表「日本の出来事、世界の出来事」を掲載し、地理的・歴史的な視点を踏まえて学習内容を理解できるように配慮した。また、巻末の「参考資料」(p.255~267)では18の法令を取り上げ、難しい漢字や旧仮名遣いに振り仮名を付し、実際の法令の文言を参照しながら「政治・経済」の学習を展開できるようにした。索引(p.268~272)には1467語を掲載し、複数ページを示す場合は重要度の高いページを赤字で示すことで、学習しやすさに配慮した。

(5) 現代的な諸課題の扱いの充実

- ① **〔ジェンダーおよび性的マイノリティに関する内容の充実〕** 日本におけるジェンダー平等について政治・経済の両面からとらえることができるよう、第1編1章でトピック「議会における男女平等」(p.51)を、また第1編3章の「諸課題の探究」の一つとして「性別にかかわらず働きやすい労働環境」(p.162~163)を取り上げた。また、性的マイノリティについての理解を図るために、第1編1章でコラム「性の多様性の尊重」(p.39)を掲載した。
- ② **〔多文化共生に関する内容の充実〕** 日本における在留外国人の増加と多文化共生について広い視野から考察できるよう、判例「マクリーン事件」(p.32)やコラム「外国人住民の社会参加」(p.65)、本文「増加する外国人労働者」(p.146~147)、「国際人口移動の増加」(p.232)を設け、さらに、第2編3章の「諸課題の探究」の一つとして「多文化共生の実現」(p.238~239)を取り上げ、身近な地域に落とし込んで考えることができるように工夫した。
- ③ **〔情報化・デジタル化に関する内容の充実〕** 世界で急速に進展しつつある情報化・デジタル化とその社会的影響について多面的・多角的に考察できるよう、トピック「ネット社会で自由をどう守るか」(p.41)やコラム「インターネットと政治」(p.76)、「キャッシュレス社会の進展」(p.105)、本文「情報化の進展と社会の変化」(p.136~137)を新設するとともに、第2編3章では「諸課題の探究」の一つとして「医療のイノベーション」(p.244~245)を取り上げることで、より具体的に探究できるようにした。
- ④ **〔最新の国際情勢の反映〕** 第2編1章に「冷戦後の国際関係と日本」(p.186~189)の項を新設し、冷戦後の動向についての記述を充実させるとともに、特に現在の国際関係に大きな影響を与えている中国についてはコラム「中国の台頭」(p.189)を設けて詳しく記述した。
- ⑤ **〔SDGsに関する内容の充実〕** レクチャー「持続可能な開発目標 (SDGs)」(p.235)を設けてSDGsの基礎を押さえることができるようにするとともに、第2編3章の「諸課題の探究」の一つとして「SDGs達成に向けた取り組み」(p.248~249)を取り上げ、持続可能な社会の形成に主体的に参加する態度を養うことができるように配慮した。

(6) 「個に応じた指導」への対応

- ① **〔メリハリのある紙面構成〕** 全国の先生方からのご意見や、大学入学共通テストの出題傾向などを踏まえて、習得すべき学習内容を網羅した。また、本文や注釈、コラム類を使い分けることで、メリハリをもたせた紙面構成にした。
- ② **〔丁寧な解説とデジタルコンテンツでつまづきを解消する「レクチャー」〕** 需要と供給、金利変化の影響、国際収支表といった生徒がつまづきやすい事項については、「レクチャー」のコーナーを設けて丁寧に解説するとともに、「Dマークコンテンツ」((6)③参照)としてスライド解説やクイズへとリンクさせることで、無理なく確実に習得できるように工夫した。

裁判員制度 (p.61)	国家の領域 (p.174)
日本の国政選挙のしくみ (p.71)	条約の締結課程 (p.176) ★
需要曲線と供給曲線①—曲線の移動 (p.97)	勢力均衡と集団安全保障 (p.178)
需要曲線と供給曲線②—曲線の傾き (p.98) ★	世界の紛争地図 (p.198~199)
景気変動 (景気循環) (p.103)	日本の領土をめぐる問題 (p.201)
物価変動と暮らし (p.104) ★	比較生産費説 (p.206)
金利の変化と暮らし (p.107) ★	外国為替 (p.207)
信用創造 (p.108)	円高と円安 (p.208)
少子高齢化と人口減少 (p.126)	国際収支表 (p.210) ★
	持続可能な開発目標 (SDGs) (p.235) ★

▲ 「レクチャー」一覧 (★は新規掲載)

- ③〔自学自習に活用できる「Dマークコンテンツ」〕二次元コードやURLからアクセスできるデジタルコンテンツ（Dマークコンテンツ）を豊富に用意し、関連する箇所に☐のマークを付記することで、生徒が自学自習しやすいように配慮した。特に「レクチャー」のコーナーにはよりわかりやすく解説するスライドやクイズを、「18歳からの社会参加」のページには興味・関心を高める映像を用意し、より効果的に学習できるようにした。

【公共紙面】公共的な空間をつくる私たち／公共的な空間における人間としての在り方生き方	【映像】戦後日本経済の発展（p.119）
【映像】日本国憲法の制定（p.26）	【映像】消費者市民社会の実現に向けて一契約と消費者問題（p.140）
【映像】現行犯逮捕後の流れ（p.34）	【映像】働き方について考える一働き方と法（p.148）
【映像】国会のしくみ（p.48）	【映像】日本の社会保障制度（p.151）
【映像】三権の抑制と均衡（p.48）	【解説】為替レートの変動要因（p.209）
【映像】選挙権の行使に向けて一選挙違反に問われる行為（p.78）	【リンク】探究に役立つリンク集（p.250）
【映像】ライフプランと金融一さまざまな金融商品（p.112）	

▲「Dマークコンテンツ」一覧（「レクチャー」に関連するコンテンツを除く）

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
「公共」から「政治・経済」へ	A-(1)(2), B-(1)(2)	前見返し～1 ページ	—
第1編 現代日本の政治と経済	A-(1)(2)	4～171 ページ	49
第1章 現代日本の政治	A-(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)(イ)	4～79 ページ	23
1節 民主政治の基本原則	A-(1)ア(ア)(ウ)	6～25 ページ	
2節 日本国憲法の基本原則	A-(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)	26～47 ページ	
3節 日本の政治機構	A-(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)	48～65 ページ	
4節 現代政治の特質と課題	A-(1)ア(ア)(ウ), イ(イ)	66～79 ページ	
第2章 現代日本の経済	A-(1)ア(イ)(ウ), イ(ウ)(エ)	80～155 ページ	23
1節 現代の資本主義経済	A-(1)ア(イ)(ウ)	82～89 ページ	
2節 現代経済のしくみ	A-(1)ア(イ)(ウ), イ(エ)	90～118 ページ	
3節 日本経済の発展と現状	A-(1)ア(イ)(ウ)	119～127 ページ	
4節 福祉社会と日本経済の課題	A-(1)ア(イ)(ウ), イ(ウ)	128～155 ページ	
第3章 現代日本の諸課題	A-(2)	156～171 ページ	3
第2編 グローバル化する国際社会	B-(1)(2)	172～249 ページ	21
第1章 現代の国際政治	B-(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)(イ)	172～203 ページ	9
1節 国際政治のしくみ	B-(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)	174～181 ページ	
2節 複雑化する国際政治と日本	B-(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)(イ)	182～203 ページ	
第2章 現代の国際経済	B-(1)ア(イ)(ウ), イ(ウ)(エ)	204～235 ページ	9
1節 国民経済と国際経済	B-(1)ア(イ)(ウ), イ(ウ)(エ)	206～219 ページ	
2節 世界経済の現状と課題	B-(1)ア(イ)(ウ), イ(ウ)(エ)	220～235 ページ	
第3章 国際社会の諸課題	B-(2)	236～249 ページ	3
探究のスキル	A-(2), B-(2)	250～254 ページ	—
参考資料	A-(1)(2), B-(1)(2)	255～267 ページ	—
		計	70